

製品・サービス動向-国内

■Poly：HPの技術を活用したZoom Rooms
向けPoly Studioシステムを発表、仕事の
進め方を再定義

(PRTIMES：11月24日)

Poly (<https://www.poly.com/jp/ja>) (東京都新宿区) は、HP社の技術を活用した「Zoom Rooms」向け「Poly Studio」システムを発表。PolyがHP社に買収・統合されて初の新製品発表となる。



Polyが仕事の進め方を再定義 (Poly)

Poly Studioは、Zoom Roomsの認定を取得しており、「HP Mini Conferencing PC」「Poly TC10 コントララー・スケジュールディスプレイ」から構成されている。

Zoom Rooms向けPoly Studioシステムは、AndroidやWindowsなどのオペレーティングシステムを選択できるようになっており、会議規模に応じて柔軟にZoom Roomsを利用することができる。

ラインナップには、小規模会議室用「Poly Studio R30 ビデオバー」、中規模会議室用「Poly Studio USB ビデオバー」、「大規模会議室用「Poly Studio E70 ビデオバー」がある。これらの製品には、「Poly Director AI 技術」などをはじめとする、会議の公平性を実現するための高度なAI機能を搭載している。

また、同梱される新たなデバイスである「Poly TC10 コントララー」は、Zoom Roomsのコントララーとしてだけでなく、Zoom Rooms スケジュールの表示ディスプレイとしても柔軟に使用できる。加えて、アクセサリや会議室のスケジュールリングディスプレイとして別途購入することも可能となっている。さらには、Poly Studio X シリーズまたは「G7500」ビデオ会議システムと併用し、会議用コントララーとして「Poly Video OS システム」上のクラウドベースビデオアプリケーションを操作することも可能という。

PolyとHPとの協力により、「Zoom Rooms」や「Zoom Phone」「Zoom Meetings」などのソリューションをトータルパッケージとして提供するとともに、Zoom Rooms システムのポートフォリオを幅広く取り揃え、優れた会議体験をもたらすとしている。

本製品は、北米と欧州では注文を受け付けており、11月下旬に出荷予定となっている。また日本を含むその他の地域では、2023年初旬に発売を予定している。なお、Poly TC10 コントララー・スケジュールディスプレイは単体では既に販売されている。

製品・サービス動向-海外

■Zoom Communications社：現代のワーク
エクスペリエンスを支える新たな新サービ
スとデベロッパー向けの新機能、機能拡張
を発表

(PRTIMES：11月24日)

Zoom Communications社 (<https://zoom.us/>) (米国・カリフォルニア州) は、Zoomtopia 2022 をハイブリットで11月に2日間で開催、その際に、現代のワー

クエクスペリエンスを支える新たな新サービスを発表した。また、デベロッパー向けの主な新機能、機能拡張も発表した。

まず主な新サービスは以下の通り。

(1) 「Zoom Mail」および「Calendar クライアント」連携（ベータ）：Zoom プラットフォームに統合された「Zoom Mail クライアント」と「Calendar クライアント」を提供する。専任の IT 担当者がいなくとも、プライバシーとセキュリティ保護が重要な企業向けにも対応する。Zoom Mail Service は、Zoom Mail Service のアクティブなユーザ間で直接送受信される電子メールをエンドツーエンドで暗号化する。Zoom Mail クライアント、Calendar クライアント、Zoom Mail および Calendar サービスはベータ版として提供する。

(2) 「Zoom Spots」：Zoom のハイブリット型ワーキングスペース。2023 年初頭に提供開始予定で、Zoom プラットフォームに統合されており、ビデオ対応の継続的に使用できる仮想スペース。ハイブリット環境での同僚間とのつながりを保ち、柔軟なインタラクションと開放的なディスカッションを促進する。

(3) 「Zoom Virtual Agent」：自然言語処理と機械学習によりお客様の課題を理解し、迅速に解決するインテリジェントな会話型 AI とチャットボットのソリューション。「Zoom Contact Center」と完全に統合することができるほか、単体のチャットボットソリューションとしても提供する予定。2023 年初頭に提供開始予定。

(4) 「Zoom Team Chat」と「In-Meeting Chat」との統合：オールインワンの「Zoom One」で、Zoom Team Chat と In-Meeting Chat の統合により、常時オンの機能が実現し、ユーザは Team Chat と Meeting を行き来してサイロ化とプロジェクトの中断を防ぎ、ミーティング終了後も会話を続けることが可能となる。

(5) 「Zoom IQ Virtual Coach」：Zoom IQ for Sales の一部として近日提供開始予定の Zoom IQ Virtual Coach

は、さまざまな販売状況をシミュレートし、見込み客に電話をかけているという設定で、売り込みのスキルを磨き、フィードバックを受け、瞬時にコンテンツのヒントが得られる練習環境をユーザに提供する。

一方、デベロッパー向けの主な新機能、機能拡張は以下の通り。

(1) 「Zoom Developer Platform」の機能強化：管理者権限のあるインストール済みアプリを有効にすることで、デベロッパーが Zoom で動作するアプリのプロビジョニングと管理を簡単に行えるようにする。これにより、Zoom アカウントの管理者は組織に対して、アカウント、グループ、またはユーザレベルでアプリをプリインストールできるようになる。また、デベロッパーは近日中に Zoom App Marketplace でアプリを収益化できるようになる。まもなく提供開始予定。

(2) Zoom 連携アプリの拡大と「Essential Apps」の提供：Zoom Meeting および Webinar のエクスペリエンスにシームレスに統合した製品内アプリの Zoom 連携アプリを、Team Chat、Zoom Rooms を含むプラットフォーム全体に拡張したことで、デベロッパーは全てのワークフローにアプリをプラグインすることが可能になった。つまり、デベロッパーは連携機能を一度開発すれば、それを Zoom 全製品に適用することができるようになる。

さらにデベロッパーは、近日提供開始予定の「Essential Apps」によって、Zoom Apps の配布を拡大できるというメリットを得られる。Essential Apps は、Zoom Meetings の有料プランと厳選されたアプリデベロッパーからの Zoom Apps をバンドルしたもの。

Zoom 社によると、Zoom Developer Platform を活用することで、デベロッパーは、Zoom API、SDK、その他のツール、リソースを使って、Zoom 用のアプリや Zoom との連携機能を構築したり、あらゆるユースケースのための革新的なビデオベースのソリューションに Zoom のコア技術を使用することが可能になると

説明している。

導入利用動向-国内

■ZVC Japan : Zoom Phone で社内電話環境を刷新、コスト削減と DR 対策強化を実現、イニシャルコストは 10 分の 1 へ

(PRTIMES:11 月 21 日)

ZVC Japan 株式会社 (<https://zoom.us/>) は、松井証券株式会社 (<https://www.matsui.co.jp/>) (東京都千代田区) が、クラウド型電話サービスである「Zoom Phone」を導入し社内の電話環境を刷新したと発表。

松井証券は、インターネット専門の証券会社として事業を展開しており、現在は、個人投資家にとって価値のある商品・サービスを幅広く提供している。時代に合わせたさまざまな取組を推し進める同社では、昨今のデジタル化の取組みの一環として電話環境の刷新を行った。

保守管理コストの負担が高いオンプレミス型の PBX から、新たにクラウド型 PBX へとリプレースする上で、金融機関ならではの高度なセキュリティ要件を満たすことや、大規模災害発生時の DR 対策 (災害復旧) 強化ができることなどを条件に選ばれたソリューションが「Zoom Phone」だった。

クラウド PBX の導入にあたり、金融機関として重要な検討事項となったのがセキュリティ。松井証券では、Zoom Phone 導入に向けて、金融情報システムを構築する際のガイドラインである FISC 安全対策基準をベースとした詳細な確認項目を作成し、Zoom Phone が同社のセキュリティ要件を満たすことを確認した。

また、DR 対策の観点では、首都圏と関西圏の双方にデータセンターがあることで、首都圏で大規模災害が発生した際にも、スムーズに電話関連の業務を継続できる万全の DR 対策体制を構築できたという。

さらに、Zoom Phone 導入により、ラック型サーバーなどのハードウェアの保守管理を含めた機器保守管理

の大幅な負担軽減にもつながった。

ZVC Japan によると、今後もセキュリティ要件の厳しい金融機関などでの導入や、より多くのお客様のハイブリットな働き方を実現すべく真摯に支援していくとしている。

セミナー・展示会情報

<国内>

■Microsoft | Neat 合同ウェビナー：ハイブリットワークを成功させる方法

日時：12 月 1 日 (木) 17:00~18:00

会場：オンライン

主催：日本マイクロソフト株式会社、Neatframe 株式会社

詳細・申込：<https://neat-japan.com/n/nd9075fd0cc62>

■Microsoft + ロジクール セミナー | 導入顧客 DX 推進部門役員から学ぶ！実体験に基づくハイブリッドワークの本当の効果と次の一手ハイブリッドセミナー

日時：東京：12 月 7 日 (水)、大阪：12 月 9 日 (木)

会場：日本マイクロソフト品川本社/大阪オフィス、オンライン

主催：株式会社ロジクール、日本マイクロソフト株式会社

詳細・申込：<https://info.logicool.co.jp/112022-122022-Hybrid-Seminar-with-Microsoft-ja-jp.html>

■ブイキューブセミナー情報 (12 月)

「「街かど」防音個室ブース 120%活用ノウハウご紹介！」「そのアイデア、通話・配信 SDK で実現しませんか？」「ありきたりなウェビナー飽きてへん？最先端 3D 合成 スタジオ体験ツアー」「より深い学びを実現する参加型 Web 講演会とは」など

会場：オンライン/オンデマンド、東京、大阪

主催：株式会社ブイキューブ

詳細・申込：<https://jp.vcube.com/event/all>

■Webex Meetings 関連ウェビナー（12月）

「Control Hub で解決する、セキュリティ強化とトラブル回避」「Webex アップデート活用方法(42.12)」「製造ウェビナー | Webex を使って最適なコミュニケーションをタイムリーにとる」など（録画も視聴できます）

会場：オンライン／オンデマンド

主催：シスコシステムズ合同会社

詳細・申込：https://www.cisco.com/c/m/ja_jp/training-events/events-webinars/collaboration-webinars.html

国内その他：<https://cnar.jp/cna/event-j.html>

※イベント情報は随時情報が入り次第掲載しております。
CNAR.jp サイトの情報もご参照ください。

業界の動き

遠隔会議・UC 業界は日々さまざまな動きがあります。この定期レポートの発行は月2回（プレスリリースと取材に基づく記事のみ）ですが、CNA レポート・ジャパンでは、それ以外の業界の動きに関連した国内外の情報を日々皆さんと共有しています。皆様の情報収集のひとつとしてご活用いただければ有難いです。

■フェイスブック（遠隔会議&UC トレンドワッチ）

<https://www.facebook.com/unifiedcom>

■Twitter（遠隔会議&UC トレンドワッチ）

<https://twitter.com/cnarjapan>

■メーリングリスト（dte-forum）

<https://cnar.jp/cna/dteforum-ml.html>

定期レポートバックナンバー

定期レポートのバックナンバー（1999年～最新号）は下記 URL で閲覧できます。

<https://cnar.jp/cna/cnareportarchive.htm>

CNAレポート・ジャパン 2022年11月30日号おわり

ホームページ: <https://cnar.jp> お問い合わせ: cnar@cnar.jp